

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	内田 勝也 (うちだ かつや)	所属	情報セキュリティ大学院大学 名誉教授
研究集会等名称	情報セキュリティ心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>(1) 日本心理学会 第76回大会 ワークショップ (2012年9月12) 参加者数  研究会員 7名 (うち認定心理士 1名)  非研究会員 16名 (うち認定心理士 1名) (2WS への参加者は1名として計算)</p> <p>合計 23名 (うち認定心理士 1名)</p> <p>(2) 月例会 (2013年4月～2014年3月: 11回)  (詳細は、添付「月例会内容」を参照下さい)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催関連 <p>(1) 日本心理学会 第77回大会 公開シンポジウムの開催</p> <p>(2) 月例会: 毎月、情報セキュリティ心理学をテーマにした研究会を開催しており、今年度は、11回開催した。  (開催内容は、添付の「情報セキュリティ心理学のためのウェブ」に記述)</p> </li> <li>・ 集会の目的 <p>(1) 公開シンポジウム: 学会会員の関心を高めるだけでなく、非会員の大会参加を促し、入会に繋げることを目的とした</p> <p>(2) 月例会: 心理学会員だけでなく、多くの人たちに情報セキュリティ心理学への関心を高め、心理学会への入会を目指す。</p> </li> <li>・ 成果 <p>(1) 月例会: 毎回、20名から30名程度の参加があり、この分野への関心を高めることができた。  今年度は、(一般社団法人) 経営情報学会「官の情報システム」部会との共同開催を2回(6月及び11月)開催でき、他学会の会員にも日本心理学会及び本研究集会の存在を知らしめることができた。  今後も他学会との共催も進めていきたい。</p> </li> <li>・ その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 情報セキュリティ企業2社、及び大手システム運用企業が会員のユーザ会から、「情報セキュリティ心理学」をテーマにした出講依頼があり、ユーザ会大阪支部や大手通信企業からも、来年度に出講予定になっている。</li> <li>▶ 来年度(H26年度)も、大会の公開シンポジウム等への参加を計画している。</li> <li>▶ また、月例会は来年度も継続して開催し、更に、関心を高めたい。次第に参加希望者の人数も増えてきており、30名を越える人数になってきた。</li> <li>▶ 今年度はウェブ (<a href="http://www.uchidak.com/InfoSecPsycho/">http://www.uchidak.com/InfoSecPsycho/</a>) だけでなく、Facebook での案内を行ったが、それぞれ効果が認められたため、今後もこれらを利用して周知をはかっていく。</li> </ul> </li> </ul>		

(様式3)

2014年3月29日

日本心理学会研究会 2013年度会計報告書

研究会名称 情報セキュリティ心理学研究会

研究会番号 研 13024

助成金額 ¥20,000

年月日	項目	金額
2013.08.05	講師謝金：北村 正晴	10,000
2014.02.03	会場費（2014年01月10日開催：新宿文化センター）	9,600
2014.02.10	プロジェクター利用料	2,000
	研究会 負担	(1,600)
	支出合計	<u>¥20,000</u>

注) 新宿区立 新宿文化センター利用料金  
(夜間料金) 第1会議室 9,600円

# 情報セキュリティ心理学のためのウェブ

As of 03/07/2014 13:51:51

[Return]

## 研究助成

- ・ 今年度(2013年)も『情報セキュリティ心理学研究』が日本心理学会の研究助成対象になりました(3年目です)。

## 情報セキュリティ心理学関連

情報セキュリティは、技術的な問題だけでなく、人間的な問題も考える必要があります。関連した資料を公開することにしました。

- ・ 2012年08月号 情報の科学と技術 に寄稿しました  
『情報セキュリティ心理学(目次のみ)』 ～人的側面からの情報セキュリティ～
- ・ 2010年09月 情報セキュリティ心理学を考える(2010年9月) 『情報セキュリティ心理学について』
- ・ 2010年09月 リアル世界の拡張 『情報セキュリティへの状況的犯罪防止論の適用』

## 情報セキュリティ心理学 研究会

下記研究会への参加は、登録制になっています。ご希望の方はメール、あるいは Facebook でご連絡下さい([メールアドレス](#)、[Facebook](#)は[ホームページの先頭](#)を参照下さい)。

### 次回の 情報セキュリティ心理学 研究会

- \* 日時 2014年03月25日(火)18:30 ~ 20:30
- \* 場所 明治大学 駿河台キャンパス(〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1)  
[キャンパスマップ](#)  
場所の詳細は、参加時にお問合せ下さい
- \* テーマ RSA Conference 2014 に参加して
- \* 発表者 内田 勝也 (横浜市/情報セキュリティ大学院大学 名誉教授)
- \* 事務局 (公益法人)日本心理学会 情報セキュリティ心理学研究会(代表 内田勝也)

### \*\*\* 過去の情報セキュリティ心理学研究会 内容 \*\*\*

		日時	2014年02月10日(月)		
		テーマ	ソーシャルエンジニアリング/ヒューマンエラー対策(その2) ~ ケーススタディで考える ~		
		発表者	内田 勝也(横浜市/情報セキュリティ大学院大学名誉教授)		
日時	2014年01月22日(水)	日時	2013年12月19日(木)		
テーマ	ソーシャルエンジニアリング/ヒューマンエラー対策(その1) ~ ケーススタディで考える ~	テーマ	ITAC 2013 (IT Audit & Control Conference) 参加報告		
発表者	内田 勝也 (横浜市)	発表者	内田 勝也 (横浜市)		
日時	2013年11月27日(水)	日時	2013年10月31日(木)		
テーマ	電子投票における情報セキュリティ対応	テーマ	ソーシャルエンジニアリング		
発表者	宮川 龍一郎 (電子投票普及協業組合)	発表者	木村 英樹 ((株)インフォブレイン)		
日時	2013年09月26日(木)	日時	2013年08月05日(月)		
テーマ		テーマ	レジリエンスエンジニアリングについて		

発表者	日本心理学会 第77回大会 情報セキュリティ心理学研究 2013 報告 内田 勝也(横浜市)／福田健(清泉女子大学)	発表者	北村 正晴(東北大学名誉教授)
日時	2013年06月28日(金)	日時	2013年05月29日(水)
テーマ	銀行における安全文化の醸成についての考察	テーマ	InfoSec World 2013 参加報告 ～ 情報セキュリティの新たな潮流 ～
発表者	持田 恭子(情報セキュリティ大学院大学)	発表者	内田 勝也
日時	2013年04月22日(月)	日時	2013年03月29日(金)
テーマ	情報セキュリティを支える心理学の基礎知見 (1) 意思決定に関わる研究プログラムから	テーマ	情報セキュリティ心理学における心理学的知見の考察
発表者	福田 健(清泉女子大学)	発表者	内田 勝也
日時	2013年02月21日(木)	日時	2013年01月17日(木)
テーマ	ショルダーハッキングはどこまで可能か?	テーマ	Social Engineering Penetration Tester 参加報告 ～ 参加して感じたこと等 ～
発表者	内田 勝也	発表者	内田 勝也
日時	2012年12月17日(月)	日時	2012年11月28日(水)
テーマ	本当は怖い "ソーシャル・エンジニアリング" ～ 書籍編集者からの視点 ～	テーマ	歴史から学ぶ(温故知新)
発表者	鈴木 亨(日経BP社)	発表者	内田 勝也
日時	2012年10月24日(水)	日時	2012年09月26日(水)
テーマ	物理的セキュリティと心理学等・犯罪心理学について	テーマ	情報セキュリティー心理戦前線 ～米投資銀行システム監査現場外伝～ & ソーシャルエンジニアリング実例(補足説明等)
発表者	内田 勝也	発表者	木村 昌弘((株)インフォブレイン)
日時	2012年08月29日(水)	日時	2012年07月18日(水)
テーマ	ISMS(情報システムマネジメントシステム)再考	テーマ	ソーシャルエンジニアリング ～ 歴史的観点から ～
発表者	内田 勝也	発表者	内田 勝也
日時	2012年06月20日(水)	日時	2012年05月18日(金)
テーマ	ヒューマンファクターとヒューマンエラーについて	テーマ	初心者のためのリスクマネジメント ～ 心理学的知見を利用したリスクマネジメント教育～
発表者	内田 勝也	発表者	内田 勝也
日時	2012年04月18日(水)	日時	2012年02月21日(火)
テーマ	フィッシング(Phishing)の考察 ～ 情報セキュリティ心理学 ～	テーマ1	標的型メール対策訓練の考察
発表者	内田 勝也	発表者	山口 健太郎
		テーマ2	ソーシャルエンジニアリングの考察
		発表者	内田 勝也

### 情報セキュリティ心理学ワークショップ等

日本心理学会 第77回大会【9月19日(木)～21日(土)札幌市】で、  
情報セキュリティ心理学研究が 公募シンポジウム に採択されました。  
ご参加ありがとうございました。

#### 情報セキュリティ心理学関連 公開シンポジウム(終了しました)

日時: 2013年09月20日(金)09:20～11:20

テーマ: SS-034 情報セキュリティ心理学研究 2013

企画代表者: 内田 勝也(横浜市)  
企画者: 西本 実苗(大阪大学)

企画者: 竹村 和久(早稲田大学)  
司会者: 山口 健太郎(横浜市立大学)

話題提供者: 高橋 優(埼玉工業大学)

話題提供者: 福田 健(清泉女子大学)  
話題提供者: 内田 勝也(横浜市)  
指定討論者: 福田 健(清泉女子大学)

指定討論者: 中西 晶(明治大学)

日本心理学会 第76回大会 情報セキュリティ心理学関連ワークショップ(終了しました)

・ 日 時: 2012年09月12日(水)10:00~12:00

テ ー マ: WS053 情報セキュリティ教育を支援する心理学の援用(3)

企 画 者: 高橋 優(埼玉工業大学)

企 画 者: 竹村 和久(早稲田大学)

司 会 者: 西本 実苗(大阪大学)

話題提供者: 高橋 優(埼玉工業大学)

指定討論者: 山口 健太郎(横浜市)

企 画 者: 上田 卓司(早稲田大学)

企 画 者: 内田 勝也(横浜市)

話題提供者: 内田 勝也(横浜市)

指定討論者: 福田 健(清泉女子大学)

・ 日 時: 2012年09月12日(水)13:00~15:00

テ ー マ: WS070 情報セキュリティ心理学研究(1)

企 画 者: 内田 勝也(横浜市)

企 画 者: 竹村 和久(早稲田大学)

司 会 者: 高橋 優(埼玉工業大学)

話題提供者: 福田 健(清泉女子大学)

指定討論者: 竹村 和久(早稲田大学)

企 画 者: 福田 健(清泉女子大学)

企 画 者: 山口 健太郎(横浜市)

話題提供者: 内田 勝也(横浜市)

指定討論者: 西本 実苗(大阪大学)

多くの方々のご参加ありがとうございました。

## 1. 情報セキュリティを支える心理学の基礎知見

(1) 意思決定に関わる研究プログラムから

日 時： 2013 年 4 月 22 日

発表者： 福田 健

内 容： 情報セキュリティ心理学を考える上で、心理学の知見からみた考え方の報告です。

## 2. InfoSec World 2013 参加報告

日 時： 2013 年 5 月 29 日

発表者： 内田 勝也

内 容： InfoSec World は、2001 年から始まっているが、それ以前は異なる名前で開催していた。ただ、3 月末から 4 月上旬に開催されてきたことと CSI(Computer Security Institute <http://www.gocsi.com/>)に参加することしか考えなかったため、気づかなかった (CSI の Conference & Expo は 2011 年以降中止になった)。

InfoSec World の基本的コンセプトは、CSI と同様、技術だけでなく、マネジメント、リスク、コンプライアンス等の分野もカバーしている。

今回は、1 日の Pre-Conference と 2.5 日の Main Conference (2 日間の Expo) に参加した。米国での情報セキュリティの潮流が大きく変化してきているのを感じた。その特徴を一言で言えば、情報セキュリティ分野が、技術だけでなく、「人間、文化創造」にも注視してきているのを感じた。情報セキュリティの新たな潮流について報告した。

## 3. 銀行における安全文化の醸成についての考察

日 時： 2013 年 6 月 28 日

発表者： 持田 恭子

内 容： 想定外/想定内の状況に対しても必要な動作を維持することができる能力をレジリエンスと呼んでいる。

最近のサイバーセキュリティ分野では、技術だけでは限界があり、組織文化を変える (構築する) ことが大切であるとの考えが海外を中心にでてきている。4 月の本研究会で報告した「InfoSec World 2013」では、文化の重要性を 2 人の基調講演者が述べており、6 月 5 日～6 日に開催された「RSA Asia 2013」でも、技術だけの対応でなく、組織文化の必要性を述べていた基調講演者もおり、セキュリティ文化/サイバー文化の醸成が重要になってきている。

今回は、銀行における安全文化を考慮した修士論文を執筆している社会人学生に、修論の研究の報告を行った。IAEA (国際原子力機関) の「Safety Culture」の考え方や「レジリエンス」の考えを、セキュリティ分野に取り入れたもの。

## 月例会 内容

情報セキュリティ心理学研究会

なお、今回は、(一般社団法人) 経営情報学会「官の情報システム」研究部会<sup>1</sup>と共同主催の研究会です。

### 4. レジリエンスエンジニアリングについて

日 時： 2013 年 8 月 5 日

発表者： 北村 正晴 (東北大学名誉教授)

内 容： 大規模システムでのレジリエンス/レジリエンスエンジニアリングについて研究を行っている事柄についての報告。

### 5. 日本心理学会 第 77 回大会 参加報告

日 時： 2013 年 9 月 26 日

発表者： 内田 勝也/福田 健

内 容： 9 月中旬 (19~21 日) に開催される日本心理学会 第 77 回大会の参加報告。公募シンポジウムとして、「情報セキュリティ心理学研究 2013」の内容報告及び、ポスター展示等、大会の様子への報告。

### 6. ソーシャルエンジニアリング

日 時： 2013 年 10 月 31 日

発表者： 木村 英樹

内 容： 今年 5 月に開催された Chris Hadnagy (クリス・ハドナジー「ソーシャルエンジニアリング」 日経 B P 社 の著者) のセミナーを中心に、ソーシャルエンジニアリングについての話題提供です。

### 7. 電子投票における情報セキュリティ対応

日 時： 2013 年 11 月 27 日

発表者： 宮川 龍一郎

共 催： 経営情報学会特設研究部会 「官の情報システム」

内 容： 国内では政治にコンピュータを利用する機会が非常に少ないですが、今年 (2013 年) 4 月、岡山県新見市で電子投票が行われた。

電子投票は、第 1 世代 (投票所投票：スタンドアローン型)、第 2 世代 (投票所投票型、オンライン集計型)、第 3 世代 (インターネット投票方式) があり、新見市は、第 1 世代の電子投票方式を採用したが、投票での都市伝説 (ウソ、誤解等々、心理学的な面も含め) について、現実の投票で判明したこと等の報告がされた。

今後、更に 電子投票の推進を行う上での、セキュリティ上の課題や心理学的な不安、誤解などについて、今回の電子投票を推進した 宮川氏からの報告と参加者との意見交換を行った。

なお、今回は、(一般社団法人) 経営情報学会「官の情報システム」研究部会と共同

---

<sup>1</sup> (一般社団法人) 経営情報学会 研究部会 [http://jasmin.jp/activity/kenkyu\\_bukai/index.html](http://jasmin.jp/activity/kenkyu_bukai/index.html)

## 月例会 内容

情報セキュリティ心理学研究会

主催の研究会です。

### 8. ITAC 2013 参加報告

日 時： 2013 年 12 月 19 日

発表者： 内田 勝也

内 容：ボストンで行われた ITAC 2013 Conference (2013.11.18～21 + 22) の参加報告。

ITAC は IT Audit & Control conference の略だが、開催されてセッションの多くは、セキュリティ関連であり、Post Conference で、"Ethical Hacking" もあり、これに参加した。

国内でも、大手企業や官公庁に標的型攻撃が猛威を振るっているようだが、米国でも、同様に、現在の最大の懸案事項だとの話を何人かのプレゼンター、参加者からあった。セキュリティの最大の脆弱性である人間、特に経営者などのトップ層を狙う標的型攻撃は技術では対応できず、心理学や行動科学の知見を使った教育・訓練等の重要性が増してきている。

この面からも、本情報セキュリティ心理学研究会の意義は大きくなってきていると言える。

### 9. ケース方式によるソーシャルエンジニアリング/ヒューマンエラー対策 (その1)

日 時： 2014 年 1 月 22 日

発表者： 内田 勝也

内 容：国内でも人間の心理的な弱さを狙った「ソーシャルエンジニアリング」による犯罪が顕在化しており、今後、更に増えるものと思われる。

実際、自治体で発生したソーシャルエンジニアリング攻撃では、漏れた情報により、ストーカーの被害者が殺害されてしまった。

今回はこの例をケースとして、どの様な課題があり、これを防ぐには何を行えば良かったかを参加者と一緒に検討した。

新しい試みを行ったが、多くの意見があり、話題性の高いケースであり、大いに議論も盛り上がった。

### 10. ケース方式によるソーシャルエンジニアリング/ヒューマンエラー対策 (その2)

日 時： 2014 年 2 月 10 日

発表者： 内田 勝也

内 容：前回と同様、実際の例をケースとして、どの様な課題があり、それを防ぐには何を行えば良かったか等について、参加者と一緒に検討した。

今回は、個人情報を含む USB メモリーの紛失とパスワード保護されたフォルダー内のファイルをご送信したケースを取り上げた。

多くの意見高官ができ、参加者にとっても、有益な時間を過ごすことができた。



## 月例会 内容

情報セキュリティ心理学研究会

### 1.1. RSA Conference 参加報告

日 時： 2014年3月25日

発表者： 内田 勝也

内 容： RSA Conference 参加報告

2月24日（月）～28日（金）に 米国サンフランシスコで情報セキュリティ最大の国際会議「RSA Conference 2014」が開催されたが、今年から、Human Element（人的セキュリティ）というセッションが新たに設けられた。

Human Element は、25日（火）～28日（金）までであったが、このセッションでの1つに、ポスターやビデオ、ニュースレター等による「Security Awareness training（セキュリティ周知教育）」が十分機能していない、そのため、心理学、行動科学等の知見を利用した新しいセキュリティ周知教育の必要性を述べていた。

他は、最近国内でも機密情報を持ち出し、退職後にその情報と一緒に自分を他社に売込むことが発生したが、機密情報を持ち出す「内部犯行」のタスクフォースが組織化されている。

教育・訓練の有効性評価については、数値化しやすい例、例えばフィッシングメール等では簡単にできるが、それ以上になると今後の課題だと言わざるを得ない状況だとか。

(以上)